

映画 TV

寒い冬、なかなか外に出かける気にならない、家でぬくぬくと映画やテレビを見ていたい……、そう思う人はたくさんいるのではないのでしょうか。せっかく見るのなら、作品をいつもと違う楽しみ方をしてもいいかもしれません。たとえば、作品の空想科学を検証してみたり、ストーリーに登場する美味しそうな料理を作ってみたり……。

そこで、今回はこちらの本を紹介したいと思います。

空想科学

『前田建設ファンタジー営業部NEO』

前田建設工業株式会社/著 幻冬舎 778.7/マ/08

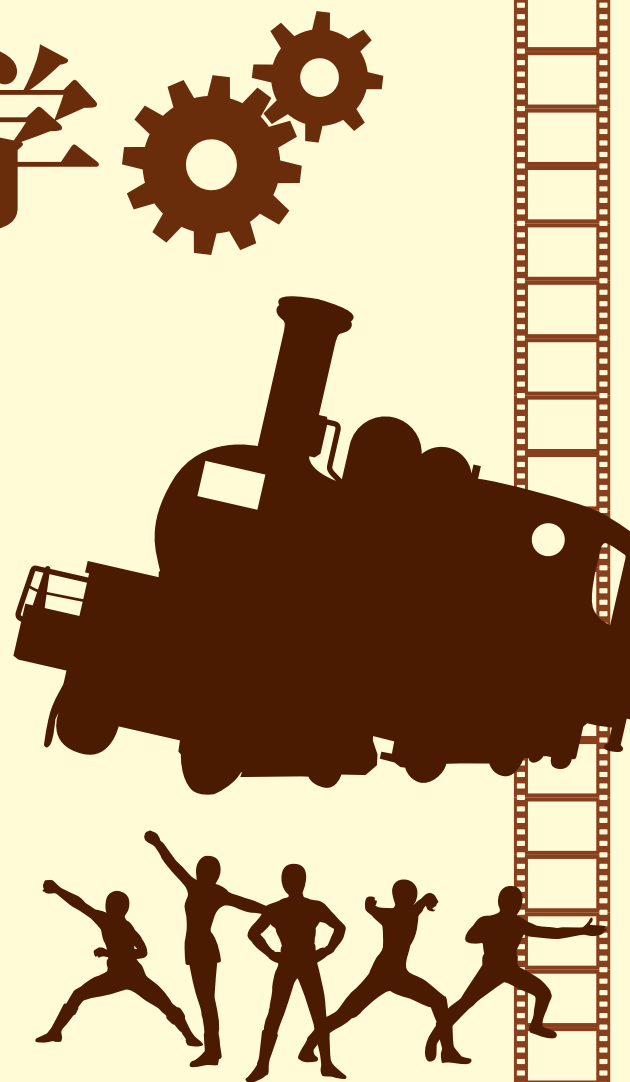
松本零士の代表作『銀河鉄道999』は古い作品ですが、テレビアニメ、映画にもなった作品なので、見たことがある人は多いと思います。

この本は実在する建設会社が、作品に登場する構造物を実際に設計して見積りまで出してみようという企画本です。設計するのは、アニメのオープニングで印象的な銀河鉄道999の地球発着用高架橋です。

遊び心で生まれた企画なので、ビジネスとして利益が返ってくるわけではありません。でも、自社で対応できない部分は社外に協力を依頼したり、工法の検討、社内の専門家との意見交換や、橋脚の振動対策や風の影響を受けることを考えたりと、実際の仕事と同じように熱意を持って取り組んでいるので、業界のことも分かります。高架橋も本当に建設されるなら、こんな感じなのかなとワクワクします。

ちなみに見積りによると、工期は3年3か月、総工事費は37億円！

誰か本当に発注してくれないかな!?



『すごい科学で守ります!』

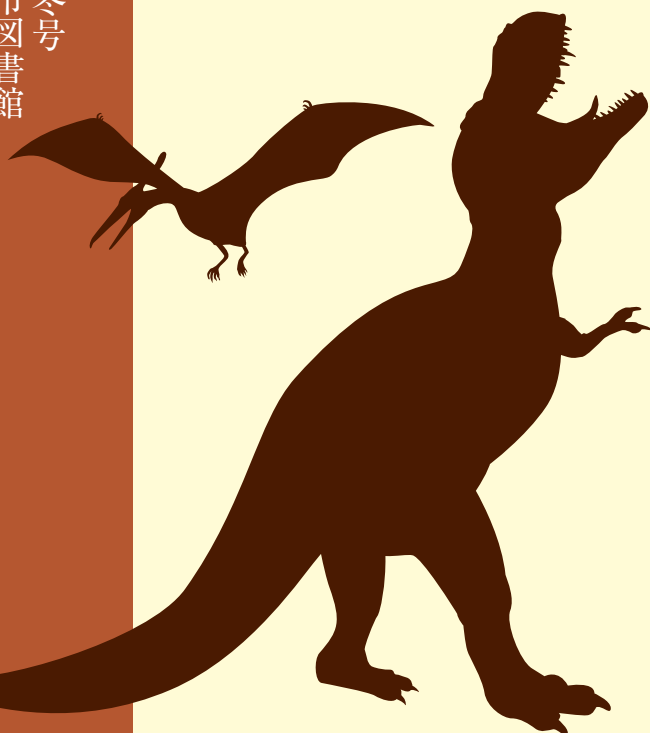
長谷川 裕一/著 日本放送出版協会 778.8/ス/98

スーパー戦隊シリーズは、ウルトラマンや仮面ライダーとともに約40年続いている特撮モノです。子どもが楽しむというイメージですが、カッコイイ俳優さんが出演していたりするので、子どもよりもお母さんが熱狂的なファンだったりすることもあるようです。今も活躍している俳優さんの中には、スーパー戦隊シリーズ出身という人もいます。

現在もこのシリーズは続いています。これまで放送されてきた過去の番組とストーリーが繋がっているわけではありません。

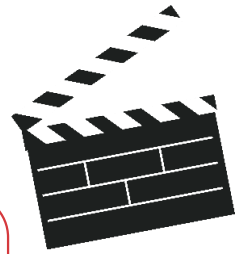
ですが、この紹介する本は、全てを連続した出来事として捉え、検証してみるという試みをしています。そうすると、最初に放送された1979年以降、地球は宇宙や地底から侵略をされていますが、ヒーローたちの「すごい科学」によって守られているんです。

子どもの頃に憧れたスーパーヒーローの世界に、もう1度飛び込んでみませんか。





映画化・ドラマ化された本



映画やドラマで小説が元になっているものがたくさんあります。その中から一部をご紹介します。
 小説と映画の違いを楽しむ、または全く別のものとして楽しむ事もできますね！
 さあ、あなたはどちらで楽しみますか？

『オケ老人！』 荒木 源/著 小学館 F/アラ/08

11月11日から女優 杏主演で公開の映画「オケ老人！」の原作小説。ある日、老人ばかりのアマチュアオーケストラ・梅響に間違えて入団してしまった高校教師。そこから、笑いと涙の物語が始まります。
 高齢化社会にエールを送りたくなる素敵な本です。



『真夜中のパン屋さん 午前0時のレシピ』 大沼 紀子/著 ポプラ社 F/オオ/12



都会の片隅に真夜中にだけ開く不思議なパン屋さんがあった。オーナーの暮林、パン職人の弘基、居候女子高生の希実が訪れる変わったお客さん達とふれあい、また様々な事件に巻き込まれてしまう…。
 心が温まるシリーズ第1弾！ 滝沢秀明主演で2013年4月にドラマ化されました。

『不祥事』 池井戸 潤/著 講談社 F/イケ/14

「ベテラン行員はコストだよ！」そう、うそぶく石頭の幹部をメッタ斬るのは、若手ホープの花咲舞。トラブルを抱えた支店を回り(臨店)業務改善を指導する舞は、事務と人間観察の名手。歯に衣着せぬ言動で歪んだモラルと因習に支配されたメガバンクを蹴り上げる！
 2014年4月にドラマ化された「花咲舞が黙ってない！」の原作本です。



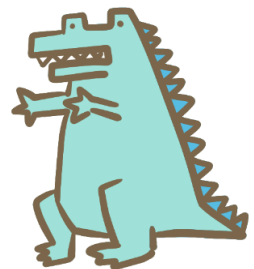
『ゴジラとアメリカの半世紀』 ウィリアム・M・ツツイ/著 神山 京子/訳 778.2/コ/05

多くのアメリカ人にとって、ゴジラ映画を実際に目にする経験は、日本のポップカルチャーとははじめての出会いを意味しただけでなく、日本という国そのものを知る初の手がかりだった。

日本の怪獣映画はアメリカでどのように受け入れられ、評価されたのか。ゴジラを深く追求することを通じて、日本のポップカルチャーに寄せるアメリカ人の強烈な関心を分析する本。

社会現象とまでなった「シンゴジラ」

東日本大震災後の2014年、アメリカで『GODZILLA ゴジラ』が公開され、「日本でも再びゴジラを！」という声が高まり『シンゴジラ』が制作されることになったという。映画の原作本ではありませんが、このような本を読んで「ゴジラ」について考えてみる…。そんな時間を持つのも楽しいかもしれません。



映画やアニメを見て、「おいしそう!」「作ってみたい!」と思った事はありませんか?手軽に作れるレシピ本をご紹介します。ご家族やお友達と一緒に作ってみてはいかがでしょうか。



料理・レシピ本



『シネマ厨房の鍵貸します』 川勝 里美・吉本 直子／編
映像文化センター 596/シ/Y

洋画・邦画の名作映画の内容と、その作品中に登場した印象的な「食」のシーンをレシピと共に紹介。「クレーマー、クレーマー」のフレンチトーストや、「愛と哀しみの果て」のティータイムなど、映画の雰囲気たっぷりの1冊です。



『鬼平が「うまい」と言った江戸の味』 逢坂 剛／著

PHP研究所 596.21/オ/00

江戸の味をこよなく愛した池波正太郎の「鬼平犯科帳」に登場する料理を、料理家・福田浩が再現しました。軍鶏鍋、鰻の蒲焼、茄子の田楽…江戸の庶民に親しまれた味を紹介しています。「鬼平犯科帳」の裏話も満載です。



『夢の名作レシピ3』 星谷 菜々／監修
日本図書センター 59/ユ/15-3



マンガ・絵本・アニメに登場した料理のレシピを紹介。「赤毛のアン」のタフィー、「鋼の錬金術師」のアップルパイなど全14レシピを掲載しています。巻末には料理の基本も載っているので、小学生くらいでもわかりやすい本です。



『サンジの満腹ごはん』 SANJ I／著
集英社 596/サ/13

漫画「ONE PIECE」の、海の一流料理人であるサンジのレシピ本です。「砂漠越えの海賊弁当」「骨付き肉」「ギンに出したチャーハン」など、原作に出てきた料理が満載です。料理監修は、映画「かもめ食堂」のフードスタイリスト・飯島奈美さん。調理手順をわかりやすく紹介しています。





冬本番、寒さも厳しくなりましたが何か運動していますか？
お正月は暖かいお部屋で、天皇杯や箱根駅伝を観戦された方も多いでしょう。ここでは、スポーツ映画・ドラマを取り上げました。



『ルーズヴェルト・ゲーム』 池井戸 潤／著 講談社 F/17/12



業績不振の親会社と廃部前の社会人野球部の奮闘物語。
経営者と社員、監督と選手が意地とプライドをかけて、大手メーカーを相手に大逆転（ルーズベルトゲーム）に挑みます。

2014年4月～6月ドラマ放映された“ルーズヴェルト・ゲーム”と原作とは野球部のその後など違いがあります。ぜひドラマと原作、両方お楽しみください。

明日も頑張ろうと思わせる結末は池井戸作品の醍醐味ですね。



『風が強く吹いている』 三浦しをん／著 新潮社 F/17/06

陸上とは無縁の個性あふれる10人が駅伝出場という目標に向かって限界に挑戦。速いだけでは勝利できないチーム競技“駅伝”。仲間を信じ牽をつなぐことで、強く逞しく成長してゆく、爽快青春物語です。



2007年ラジオドラマ化され2009年映画が公開されました。



映画・ドラマに、原作本に、感動した!!! という方には是非『陸王』池井戸 潤／著 集英社 F/17/16 をお勧めします。



零細老舗足袋メーカーが業績不振を挽回しようと、ランニングシューズ開発に挑みます。従業員20人の地方零細企業が大手シューズメーカーに立ち向かい、伝統と情熱、チームワークで、苦難を乗り越え勝利する。

作者独特のハッピーエンドを想像しつつもハラハラドキドキ引き込まれてしまう作品です。